



|              |                                                                             |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| Title        | 樹声石心記                                                                       |
| Author(s)    | 遠藤, 齊彦                                                                      |
| Citation     | makoto. 1975, 12, p. 8-8                                                    |
| Version Type | VoR                                                                         |
| URL          | <a href="https://doi.org/10.18910/86218">https://doi.org/10.18910/86218</a> |
| rights       |                                                                             |
| Note         |                                                                             |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# 樹声石心記

財団法人 大阪防疫協会

理事 遠藤 齊彦

かの室町文化がもたらした、生活様式の変革は、いわゆる日本的といわれる日本人の生活文化の原型となったといえる。

その生活様式の変化というのは、何かというと、『座の文化』であり、それはタタミによってもたらされた。

一方書院造りという住居様式は、床の間を生み、その空間は、草木芸術の一つである華道によって生かされることになった。しかし華道といっても、その頃の華道は、ただ単に花瓶に花を生けるだけの芸ごとではなかった。その思想とは

草木をみて心をのべ、春秋あわれを思い、本無（万物の根源）一旦の興をもよおすのみにあらず、飛花落葉の風の前にかかるさとの種をうる事もや待らん。

と池坊「専応口伝」にもあり、これは発達する園芸、盆栽に大きな影響を与えた。

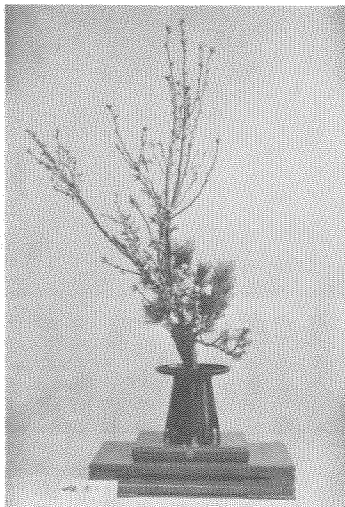
貞享という年は五代綱吉の時

代である。この年にでた「立花秘伝抄」の中に立花細工の事として、その一節に盆栽の世界に作風の点でも傾聴にあたいする一節がある。

一或人の云、立花は山木野草のおのづからなる景氣をうつすに至極とす、然るに木及び

とある。この考え方は、今日の盆栽づくりにも、きわめて参考になると思う。

ことに草木をためて、それが自然美を作るもののためであれば、その細工は許されてもいいし、自然芸術である以上人間が作為を加えて、造型をするの



池の坊  
近藤華風先生作品

草をためて立てる事いかがぞ

や、されば木をねぢ、草をたむるは、おのづからなるすがたをうつさんがため也。

細工をしても、細工と見えざるやうにする時は細工にあらず。

が、芸術ではなからうか。この意味において、まさに「細工をしても細工を見えざるやうにする時は細工にあらず」というのが当然でなからうか。つまり、今日の盆栽づくりも、まさに、人間が技術を施し、自

然木を作りあげる。

ここにまた自然芸術といわれる理由がある。こうして前代に見られた苗木芸術思想はこの時代に入り、生きた植物をあつかう園芸、盆栽の領域に伏流となった。この精神が生かされることになるのである。

また近世芸道の本質はなんと云っても『伝統の制約』であった。

いわゆる秘技相法でありこれらは文字になされていないと云われる。

そうならばこの時代の根本的な精神は何かというと、いみじくも俳聖芭蕉がいったように、「松のことは松に習え、竹のことは竹に習え」とは当世生きる者としてすべてに通ずるものがあるのではなからうか。

いま世論では自然環境保全の言をきく。自然環境保全の本質を考え、原点に立ちかえり、自然のサイクルに順応したものを自己の生活環境に即して生かし一人一人の心構えで実行することが最も大切であると信ずる。

年の故が近頃盆栽なるものが眼に止まるようになったのであって拙筆をとった次第です。

天高く馬肥える秋、皆々様の健康を祈ります。

## 府政だより

大阪府衛生部では次の主な行事を行います。

○ねずみ駆除月間  
期間 10月中

○インフルエンザ予防特別対策  
期間 10月～12月中

○狂犬病予防月間  
期間 10月中

○目の愛護週間  
期間 10月10日～16日

○食生活改善普及運動月間  
期間 10月中

○薬と健康週間  
期間 10月12～18日

○麻薬、覚せい剤禍撲滅運動  
期間 10月～11月中

○大阪府狭山保健所庁舎新築されました。

場所 南河内郡狭山町半田

電話 〇七三 〇八一八二、一三二  
九月二十五日より業務開始

## 編集後記

▼表紙の写真は秋の味覚丹波グリ（銀寄せ）の木です。

▼断続した豪雨についての激甚災害地区の皆様方へ衷心より御見舞申し上げます。

▼本号は随筆風のもの多く、いつもよりぐっと、くだけたものになりました。（喜多）